

「日本におけるケミカルバイオロジー研究新展開」に関する研究開発専門委員会
第3回委員会 議事抄録

日時 平成24年10月24日 15時30分～19時30分
場所 東京国際フォーラム ガラス棟505室/504室
出席者 長田裕之（委員長）、穴澤秀治（副委員長）、
浅見忠男、味戸慶一、上仲俊光、上村大輔、遠藤正志、岡部隆義、
掛谷秀昭、河岸洋和、木村宏之、斎藤臣雄、新家一男、菅裕明、
菅原二三男、袖岡幹子、田中隆治、永野栄喜、馬場良泰、濱口洋、
春山英幸、日野資弘、矢守隆夫、吉村巧（五十音順、敬称略）
欠席者 井本正哉、上杉志成、大島悦男、菊地和也、白井真、辻尚志、
（五十音順、敬称略）

講演 ～ 創薬プラットフォーム

・春山英幸委員（第一三共RD ノバーレ(株)）

「第一三共グループにおける研究開発生産性向上の取組み」

未充足医療ニーズ～背後にある複数因子制御～循環代謝、癌

新規カテゴリー～新しいメカニズムからのアプローチ～アポトーシス、炎症
共通基盤プラットフォーム（疾患領域に依らない）

～薬物動態、安全性、タンパク発現、天然物、オミクス

・菅裕明委員（東京大学 先端科学技術研究センター）

「創薬プラットフォーム技術革新の重要性とペプチドリーム流ビジネスモデル」

ベンチャー企業「ペプチドリーム」⇔ 技術開発、POC担当：東大

特殊ペプチド（人工物）、経口薬、リボソームのマシナリーで合成

東大からペプチドリームに排他的ライセンスアウト

・遠藤正志委員（三菱化学(株) 内部統制推進部）

「アジア経済発展の観点からの国際連携」

10億人超の人口を抱える中国とインドの近代史をかんがみ、現在の経済活動を
紹介。今後、エネルギー、食糧、環境に関する問題が、両国での大きな課題と
なる。

・田中隆治委員（星薬科大学）

「天然物化学をどう考え、商品化につなぐか」

サントリー在職中に関わった天然物関連の研究を紹介。フラボノイドの利用に
関する研究。

- ・ 矢守隆夫委員（医薬品医療機器総合機構 審査センター）

「抗がん剤創薬プラットフォームとしてのがん細胞パネル

～NCI 生まれの方法論の日本風アレンジから創薬へ」

がん細胞パネルによる薬剤の標的同定法の有用性。PI3 キナーゼ阻害剤として ZSTK474 を同定し、開発に至った経緯が紹介された。

